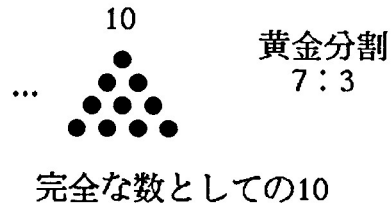
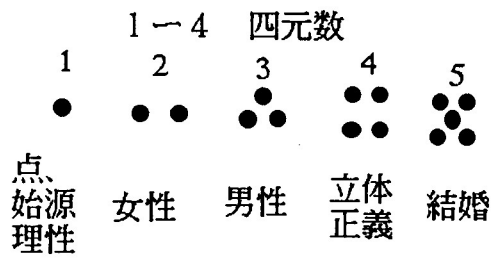


ピタゴラス派からコスモスと原子論へ

ピタゴラス派の数 神秘主義

古代エジプト・バビロニアの数学は
算術・実用的な測地術



古代中国の易の思想・陰陽説との類似

現象と本質の区別

パルメニデスの一元論と
エンペドクレスの多元論

統一

不変な 個性
に注目

本質の体現としての幾何学
に注目

原子論

自然の不変性／不滅性の代表としての
原子 (a-tom : 分割できないもの)

原子とその空虚の中での運動
(動的な自然観)

原子の合法的な離合集散の結果としての
自然の多様性

{ 根拠と必然性 (デモクリトス)
偶然性と自由意思の可能性 (エピクロス)

無神論 (唯物論)

幾何学的世界観 とコスモス

プラトンとアリストテレス

秩序の体現としての対称性

宇宙と社会の位階的構造
(球殻的宇宙構造)

完全性 (神性) の体現としての
円・球と等速運動
円環的な時間観 (運命観)
宇宙の永遠不滅性 (不変性)
空虚は存在しないという静的自然観

神の技術により作られた自然

地上界と天上界の二元的宇宙観

四元素 (火、土、水、空気) と
第五物質 (アイテールまたはエーテル)